

### 3 地域別の動向

#### (1) 北海道



北海道地域では、景気はやや弱含んでいる。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費はやや弱含んでいる。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい状況であり、持ち直しの動きが緩やかになっている。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(    は上方修正、    は下方修正 )

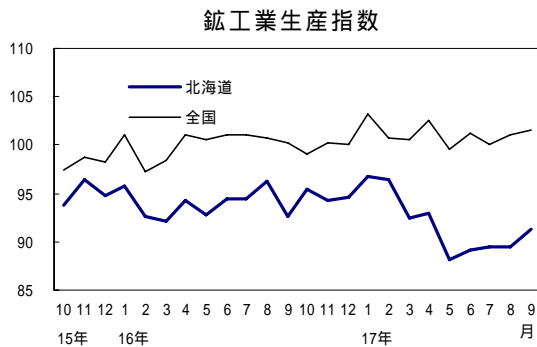
#### 前回調査からの主要変更点

|      | 前回 (平成 17 年 8 月) | 今回 (平成 17 年 11 月) |  |
|------|------------------|-------------------|--|
| 住宅建設 | 減少               | 増加                |  |

#### 1. 生産及び企業動向

(1) 第一次産業は、生乳生産は前年並みとなり、水産業の水揚量は前年を上回っている。  
 生乳生産は、牛乳等向けが増加した一方、乳製品向けが減少したことから、総量では、994,144tと前年比で1.2%増と前年並みとなった。水産業(主要11港主要品目)は、この時期の主力であるさんま、ほっけ及びすけとうだらが前年を上回ったことから、水揚量は前年を上回っている。

(2) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。  
 食料品・たばこは、水産加工品などが好調であったことから3期振りに増加している。パルプ・紙は、新聞巻取紙などにより増加している。電気機械は、家電製品向けのプリント配線盤などが好調であったことから増加している。窯業・土石は、9月にセメント製造ラインの定期修理があったことなどから減少している。金属製品は、橋りょうなどの反動もあり、3期連続の減少となっている。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

|         | 付加価値<br>ウェイト | 生産        |           | 出荷        | 在庫        |
|---------|--------------|-----------|-----------|-----------|-----------|
|         |              | 4~6<br>月期 | 7~9<br>月期 | 7~9<br>月期 | 7~9<br>月期 |
| 食料品・たばこ | 26.5         | 11.3      | 5.0       | 0.8       | 6.5       |
| パルプ・紙   | 12.1         | 2.4       | 1.0       | 0.7       | 4.7       |
| 電気機械    | 9.5          | 1.2       | 2.4       | 2.1       | 7.7       |
| 窯業・土石   | 9.0          | 9.7       | 11.1      | 11.0      | 1.1       |
| 金属製品    | 9.0          | 0.5       | 9.2       | 11.3      | 11.3      |
| 鉱工業     | 100.0        | 5.5       | 0.1       | 1.2       | 1.8       |

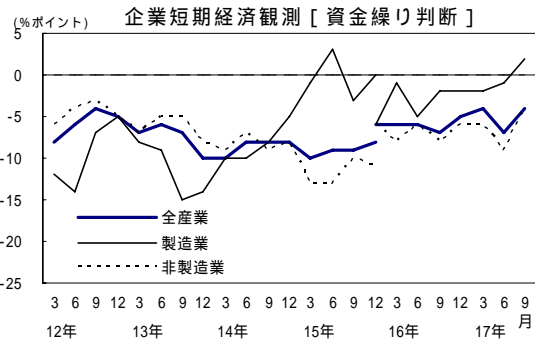
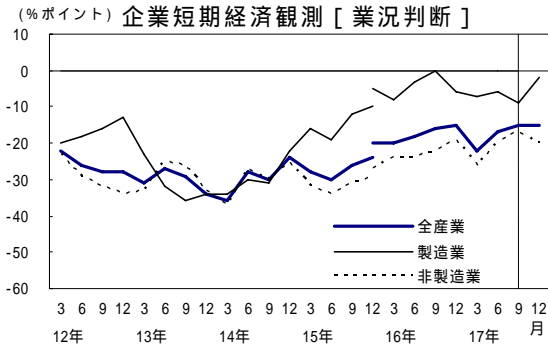
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 7~9月期は速報値。

(備考) 1. 12年=100、季節調整値。  
 2. 平成17年9月の北海道は速報値。

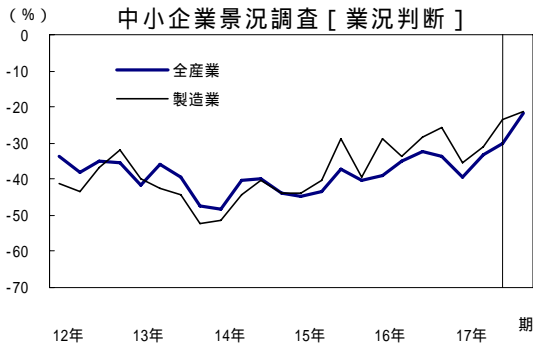
(3) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ縮小している。

企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。17年12月は予測。15年12月は新・旧基準を併記。

(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。15年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。17年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(10月)[企業動向関連(現状)]

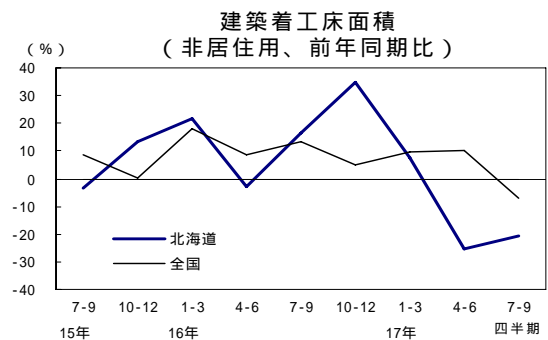
「不動産取引あるいは建物の建築着工の状況から判断して、依然として低水準で推移しているものとみられ、変化はない(司法書士)」など「変わらない」とする回答が多くみられた。

(4) 17年度の設備投資は前年度を上回る見込みとなっている。

企業短期経済観測調査[設備投資(9月調査)]

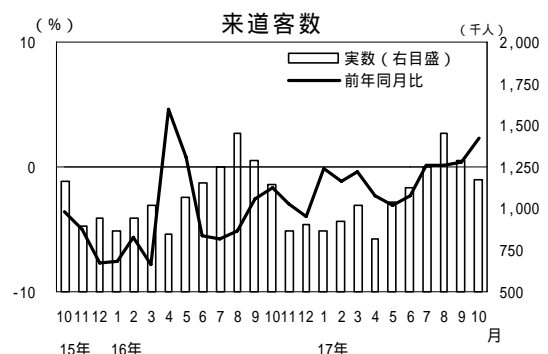
|      | (前年度比、%) |            |
|------|----------|------------|
|      | 16年度実績   | 17年度見込     |
| 全産業  | 8.0      | 5.6( 1.6)  |
| 製造業  | 21.2     | 40.1( 0.3) |
| 非製造業 | 2.0      | 10.4( 2.5) |

(備考)( )は前回(6月)調査比修正率。電気・ガスを除く。



(5) 観光はやや持ち直している。

来道客数は、前期より前年並みの水準に回復してきている。今期は、知床の世界自然遺産登録の効果などもあり、主力である東京方面を含む他地域からの来道客数が持ち直し傾向に推移し、10月は昨年の上回る動きとなっている。



(備考)北海道観光連盟調べ。

(1) 北海道

2. 需要の動向

(1) 個人消費はやや弱含んでいる。

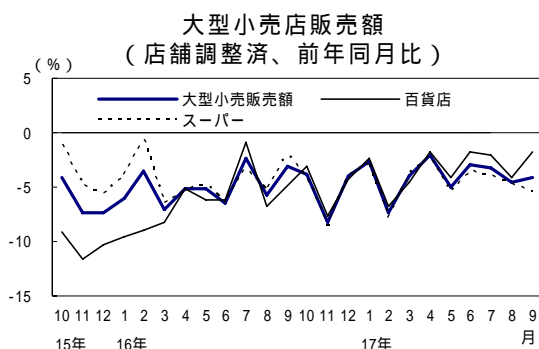
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、7月はクリアランスセールが好調だったため、身の回り品が6か月ぶりで前年を上回ったものの、衣料品や飲食料品が振るわなかった。8月は残暑の影響で秋物商品の動きが悪く、衣料品、身の回り品や飲食料品が振るわなかった。9月はブランド商品を中心に身の回り品が前年を上回ったものの、残暑の影響で秋物の衣料品や飲食料品が振るわなかった。四半期でみても前年割れが続いており、減少幅は縮小していない。なお、日本百貨店協会によると、北海道地区の10月の売上高は、前年同月比で1.4%減となっている。

スーパーは、主力の飲食料品が米や野菜の単価下落の影響で低下し、衣料品、その他の商品も低調だった。四半期でみると、前期に比べ若干減少幅が拡大した。

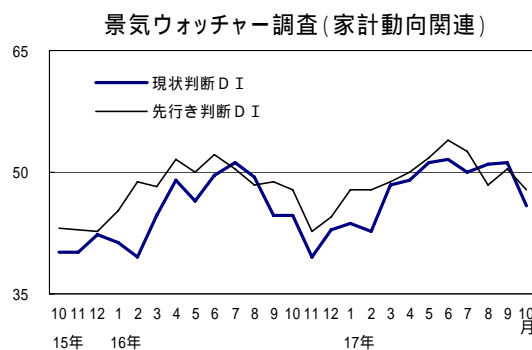
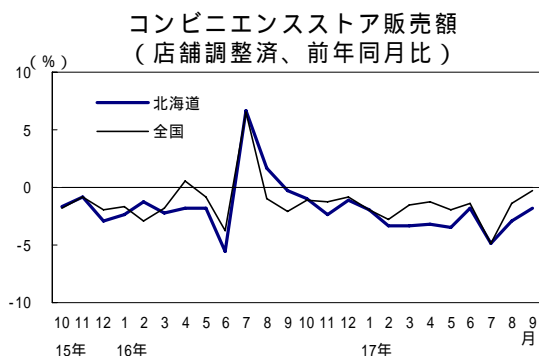
景気ウォッチャー調査(10月)[家計動向関連(現状)]

「秋物の出足は良かったものの、10月に入ってから気温が思ったほど下らず、秋冬物に対する客の購買意欲が落ちている(商店街)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



|          | (前年同期比、%) |         |      |      |
|----------|-----------|---------|------|------|
|          | 16年10-12月 | 17年1-3月 | 4-6月 | 7-9月 |
| 大型小売店    | 5.2       | 4.6     | 3.3  | 3.9  |
| 百貨店      | 4.9       | 4.4     | 2.5  | 2.5  |
| スーパー     | 5.4       | 4.7     | 3.8  | 4.7  |
| コンビニ     | 1.5       | 2.9     | 2.8  | 3.2  |
| 景気ウォッチャー | 42.4      | 44.9    | 50.6 | 50.7 |

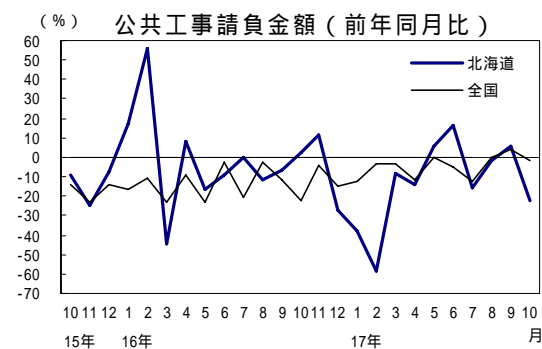
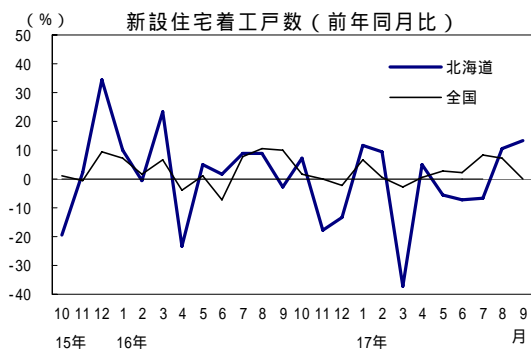
(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。  
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。



(2) 住宅建設は増加している。

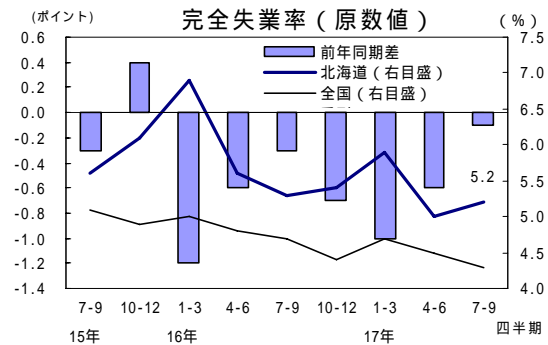
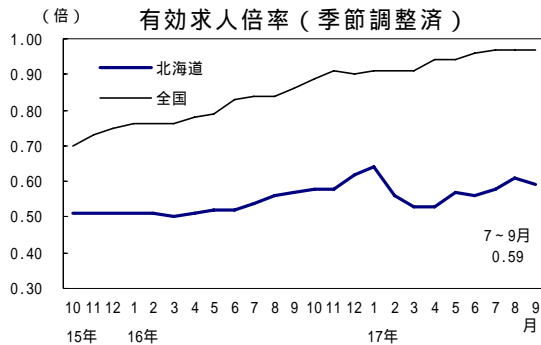
持家などが前年を下回ったものの、貸家、分譲が前年を上回ったことから、全体では増加している。

(3) 公共投資は17年度累計でみると前年度とほぼ同水準である。



### 3. 雇用情勢等

- (1) 雇用情勢は依然として厳しい状況であり、持ち直しの動きが緩やかになっている。  
有効求人倍率及び完全失業率  
有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期と同水準となっている。

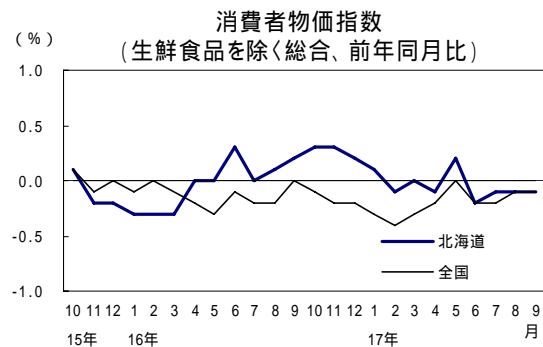


景気ウォッチャー調査 (10月) [雇用関連 (現状)]  
「時期的に求人件数が減少しているのは例年通りであるが、小売、サービスでは微増している。ただし、その業種を取り巻く業界は今一歩活性化していない (求人情報誌製作会社)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

- (2) 企業倒産は、件数が大幅に増加し、負債総額も増加している。  
(3) 消費者物価指数はおおむね横ばいとなっている。

#### 企業倒産

|       | (件、億円、%)  |         |      |      |        |
|-------|-----------|---------|------|------|--------|
|       | 16年10-12月 | 17年1-3月 | 4-6月 | 7-9月 | 17年10月 |
| 倒産件数  | 136       | 168     | 132  | 142  | 38     |
| (前年比) | 0.7       | 10.5    | 19.0 | 29.1 | 20.8   |
| 負債総額  | 510       | 787     | 265  | 421  | 120    |
| (前年比) | 52.8      | 76.9    | 38.9 | 85.8 | 0.1    |



#### 景気ウォッチャー調査 (10月) [合計 (特徴的な判断理由)]

##### <現状>

- 本州客の動きが良くなってきている。海外からの旅行者も増加傾向にある。気候が良いこと、愛知万博の終了、知床及び旭山動物園の効果といった要因が考えられるが、ブーム的な影響が影を潜め、入込客の増加に確かな手ごたえを感じる。ただし消費単価の面では厳しいものがある (観光型ホテル)。

##### <先行き>

- 北海道庁職員の減給が、他の公務員にも影響し、購買意欲が無くなる (乗用車販売店)。

#### 景気ウォッチャー調査 (合計)

